

第4回 新しい日田の森林・林業・木材産業振興ビジョン策定 木材産業部会

日時：平成26年11月26日（水）18：00～20：00

場所：日田市役所7階 中会議室

次第

1. 開会
2. 議題
 - (1) 素案について
3. 意見交換
4. その他
5. 閉会

事務局資料説明省略

部会長

ビジョン案についてご意見をいただきたい。

部会員

前部会の骨子案では、人材育成の重点施策で「卒論、研究目的で交流を持つ学生を増やす」との記載があったが、今回の素案では抜けている。何か理由があるのか。11月に九州の建築系の大学と連携して、日田で林業・木材産業の見学・研修を受け入れた。毎年学生を受け入れていくことが日田にとって大切であるため、その部分は強く打ち出してもらいたい。学生であれば毎年変わるので、PR効果は大きい。ビジョン全体的に日田としての特色が薄くなった。林業咸宜園の箇所は、市内向けの施策となっているので、もう少し域外の人を呼び込めるような内容にしてほしい。現場の技術者などの育成も大切だが、まずは知ってもらうという入口の部分にも力を入れて欲しい。

事務局

学生の研究フィールドについては、ご指摘の通り抜け落ちていた箇所なので、きちんと記載したい。

部会員

ビジョンは良くまとまってきたと感じる。日田スギのPRについての記載が見あたらないが、どこかに記載があるのか。

事務局

PRについては点在している。例えば、42ページに「日田スギポータルサイト」の開設の検討の箇所で、インターネットを活用した販路・販売の開拓、拡大、あるいは、「木材のまち日田」～の部分が該当する。43ページに取組例の一番下に、日田材の県外PRとして、福岡市中心部での店舗の増改築等での内装材の支給を提案している。

部会長

「地域材」をPRし過ぎている。国産材の利用拡大が重要であって、地域を強調しすぎるのは良くない。

部会員

ビジョンはきちんと集約されていて、記載内容が全て実現できれば面白いまちになると思う。一方で、どう具現化するかが重要になる。ビジョンによって、皆がやるべき方向が見

えてきたので、良い機会になったと思う。それぞれの立場の人が各々できることに取り組めばよい。自分のやりたことが地域貢献につながれば、付加価値が高まる。自分のできることに取り組んでいきたい。また、自分だけでできないことのひとつが、27ページの「産業観光」だ。福岡県糸島市では、専門業者が森を使ったフォレストアドベンチャーを開設している。日田でも、このような森で遊べる場所、イベントが開催される場所があれば、例えば、林業・木材産業のまち日田を知るため、日田杉の館や市内の製材所の見学、ワークショップなどをすると丸1日かかるので、ツアーを組める。それぞれの立場の人がボランティアではなく、自分の仕事の延長で収益が得られるようになれば観光業が成り立つ。海外観光客の誘致なども可能になるのではないか。

部会長

自分達ができないことを無理してやる必要はないが、点で散らばっているものが横でつながればかなりのことができる。

部会員

内容の中で「調査・研究」が5～6回出てくる。市がビジョンに沿って本当に研究するのか。本来ならば、研究機関が担うことかもしれない。私どもは、大分大学の建築系と付き合いがあるが、農学部の括りでいくと、九大も視野にいれる必要があるだろう。もう少し、大学との連携を盛り込んでも良いかもしれない。産業観光の視点は良い。先日来、日田家具協会と木協との連携の話が出てきている。山の木から製材、住宅、家具・小物などを一貫して見学・購入できる仕組みや、見学そのものが収益になる仕組みをつくるのができるのではないか。観光ツアーイメージを記載してもらえればと思う。林業咸宜園構想については、木材利用アカデミーも含め、日田市が旗振り役をするのか、あるいはもっと大きいところがその役を担うのか、文章を読んだだけではイメージが沸かなかった。木材利用アカデミーは関連団体が旗振り役を買って出ようとしている。研究機関への協力依頼の打診もあったと聞いている。市は支援ということだと思うが、うまくネットワークを張らなければ難しい。また、アンケート結果にはあったが、本当にそこまで木造軸組構造を求めているのか最近疑問に思う。国の統計では2×4が増えている。国産材の2×4にシフトできれば、外材が主流だった市場に食い込めるのではないかと思い、研究に取り組んでいる。CLTについては、大分県で誘致は難しいかもしれない。供給のミスマッチを防ぐためのイメージの箇所があったが、ここは慎重に描いて欲しい。A～D材がきれいに分配できるのか。需要状況によってはBCD材ばかり求められて、A材の行き場がなくなることも想定される。40ページの「薬樹」については、具体的な研究連携先はあるのか。輸入材が多いので、漢方薬メーカーが興味を持っているという話を聞く。放棄地などへの薬樹の植林もひとつの手かもしれない。いずれにしても、誰が旗振り役になるのかが重要だろう。全体的には良

くできていると思う。日田スギデザイン会議の創設や具体的な旗振り役を既に想定しているのか。

部会長

旗振り役は1人ではなく、多い方が良い。旗振り役を担う人材の育成も重要だろう。また、既にその役にふさわしい人もいるので、みつけてつなげば良い。

事務局

デザイン会議については、まずは横でつながってもらえる場を提供したいと思っている。つながってもらいながら、地域の課題を見つけ、その課題の解決策に向けたプロジェクトを考える場所を提供できればと思っている。薬樹については、農業振興課の所管を検討している。市単独でできることではないので、県などの協力をいただきながら検討を進めたいと考えている。人材育成については、少し具体的な話として、原木協や木協が話を進めていると聞いたので、その後押しになればとの意図で木材アカデミーを記載した。

部会員

37ページの取組方針に主伐と利用間伐の推進とあるが「計画的な」を入れて欲しい。需要に対応し、4～5月は生産量を計画的に減らすなど。38ページの販路・販売拡大の流通機能強化の取組方針として「日田スギポータルサイトの開設検討」とある。ポータルサイトのイメージが沸かないが、いずれにしても販売をつなぐ役目の人が必要なので、マーケットの導入も記載して欲しい。39ページに資源にカスケード利用が記載されているが、日田市はバイオマスタウン構想をつくっていたと思う。そこの関連性を記載してはどうか。54ページの木材アカデミーについては、最後の行の人材の本市への定着を指しますについては、実際の需要は福岡市などにあるのではないかと。日田に定着は難しいかもしれないので、面的なネットワークを形成することで、結果、建築士などに日田スギを使ってもらえるようにすれば良いのではないかと。

部会員

ビジョンとしてはこの内容で良いと思う。興味ある市民の方も読みやすいだろう。ただし、具体的な実施計画の段階では、考え方の緩い部分に具体性を持たせる必要があるだろう。現在の林業・木材産業の構造図・流通図を追加して欲しい。また、産業観光の話が出ていたが、観光協会では旅行業を取得しており、産業観光にも取り組んでいる。バイオマス発電や森林に連れて行っている。九州森林ネットワークのアテンド実績などは増やしているがまだ需要は少なく、必要としている先に出会っていない部分があり、情報を増やしていく必要がある。アドベンチャー施設のようなものができると、来訪者が増えるだろうし、そこで林業に興味ある層などの情報を観光協会が集約しながら、より細やかなアテンドが

実施できるようにできればと思う。ここ5年くらいの間に、大手旅行会社も視察に来ているが、現場の技術者、職人が多く、一般向けの話ができる人が少ない。伝える人が重要なので、それが林業咸宜園、アカデミーで「案内人」の育成も重要になるのではないかと。トライ・ウッドと安成工務店のよう、自分の家の木を見に行くという流れは大きくなるのではないかと。また、林業祭りが年に1回開催されているが、森の中で開催しなければ本末転倒ではないか。年に1回森で遊ぶ、家具を作るなど、工夫すればもっと楽しくなる。「やぶくぐり」という団体の活動に携わっているが、一番力を入れているのが、山とまちをつなぐというテーマだ。2年前に、トライ・ウッドや建築家の谷尻誠氏などと組んで、福岡市のイムズでイベントを開催した。また、先日、画家の牧野氏が大阪で「やぶくぐり」という個展を開いた。関連イベントで「やぶくぐり」の活動紹介や、飛騨産業の方を呼んで「飛騨・日田スギ対決」のトークショーを開催した。都市部にも関わらずイベントは満席だった。山に興味ある都市部の方もいる。また、弁当をメディアとして活用した「きこりめし」「かつばめし」もプロデュース、販売している。3月に山に入り、やぶくぐりのスギを1本伐採し、製材し家具をつくった。そのように「やぶくぐり」で試験的な活動もしている、事例として紹介できればと思う。また、産業観光においては「お金をもらう」ということが重要である。最初だけ無料にすると、その次からも無料でないと来なくなる。

部会長

31ページの取組方針「生物多様性の維持」は、具体的内容が分からないので、もう少し分かるように書いてもらいたい。また、ビジョン全体としては面白みがなくなったような気もする。

部会員

ビジョンは盛りだくさん書いておく必要があるが、その中で優先順位が必要となるだろう。

部会長

個人的な意見になるが、必ずできることだけを書くべきだと思っている。林業咸宜園は何とか実行して欲しい。後継者問題が深刻である。国も謳っているのでぜひ取り組むべきだ。

部会員

ビジョンの人材育成の箇所では、3つ団体を立ち上げるようになっているが、3つも必要ないのではないかと。内容が重複しているところがある。大きな構想があり、その下に具体策がぶら下がるという形ではいけないのか。

事務局

林業咸宜園は、具体的な施設や団体があるわけではなく、人材育成の取組をまとめるものとしてイメージしている。デザイン会議については、場の提供がメインで、縛りのある組織ではなく、幅広く興味・関心、やる気のある人たちに集ってもらい、それぞれの課題解決を図ってもらうことをイメージしている。木材アカデミーとデザイン会議はさらに具体化すれば、重複する部分が明確になると思うが、現段階ではそこまでの整理ができていない。

部会員

今の説明を聞く限りでは、林業咸宜園と日田スギデザイン会議が完全に重複するような感じがするが。

事務局

人材育成の大本を「林業咸宜園構想」として上位概念に位置づけ、その下に各プランがついているというイメージである。木材アカデミーは、目的意識や育てたい人材像が明確になっており、参加者もある程度想定されているイメージだ。一方、日田スギデザイン会議は、そのような縛りが全くなく、学生、一般市民など区別なく人を呼び込んで、自分たちの課題を自分たちで解決していく、その手伝いを行政が行うというイメージだ。

部会員

もともと「咸宜園」とは、色々なところから人が集まる学びの場なので、事務局の説明を踏まえると、日田スギデザイン会議の主旨が「咸宜園」なのではないか。日田スギポータルサイトの立ち上げ自体は良いと思うが、サイトはあくまでもバーチャルで、画面と実物のイメージが異なる場合もあるので、日田材の良さが実感できる場をどこかに設ける必要はないのか。また、デザイン会議については、市が主体となって立ち上げるのは良いが、最後まで面倒は見たい。

部会員

具体的なプロジェクトの立ち上げは民間の役割だと思うので、それを行政が後押ししてくれるのであれば助かる。また、実際に自分でプロジェクトを立ち上げようとした場合、立場の違う人たちと横のつながりを作っていくのは想像以上に難しいので、日田スギデザイン会議を通して行政に声かけをしてもらえるのはありがたい。

部会長

2～3人でも構わないので小さな機運が生まれたときに、この会議を利用するという流れができれば良いのではないかと。そのような気楽さが必要だ。

事務局

デザイン会議は話しをするだけの場ではなく、具体的なミッションをこなす場としていきたい。また、資金調達などの面で行政でできることがあれば支援したい。ただし、堅苦しい場にするつもりはない。

部会員

人材育成については、林業咸宜園構想という大きな考え方のもと、木材アカデミー、デザイン会議を下に入れて1本にまとめた方がよい。林業関係者、クリエイター、一般市民などセクターが分かれていて横のつながりができていないのが現状だ。直で横につながった情報交換、意見交換ができた方がよい。

部会員

試験場などに依頼して他県からも講師を呼んで建築、構造などを教え、結果、日田スギを使ってもらうという流れが咸宜園構想と捉えていた。そのため、重点施策が分かれていると思っていた。

部会員

林業咸宜園構想は、いわゆるコンベンションみたいなものだ。日田に来て学んで宿泊してもらうなど複合的な要素があるので、このままの位置づけで良く、その下にアカデミーとデザイン会議を入れれば良いと思う。

事務局

林業咸宜園は全体を包むというイメージだ。骨子案の段階では無かった木材アカデミーの動きが出てきたので、咸宜園に付く形で記載をした。一方、重点施策でデザイン会議を咸宜園と分けたので、バラバラのイメージになってしまった。人をつなぐ、人材を輩出するという目的が同じであれば、ご指摘の通り重点施策(3)－3と4は合わせた方がわかりやすいかもしれない。

部会員

木材アカデミーについては、技術者不足の解消が大きな目的で、出口戦略という要素は薄いと聞いている。全てを網羅するものを設立するのではなく、林業咸宜園の中にいくつも項目があって良いと思う。

部会員

ビジョンとして意図的に「緩く」作っている部分があるのではないか。咸宜園構想の総枠の中でまとめたという形にした方が色々動けるので、先ほどの意見に沿えば良いのではないかな。

部会員

内容は作り込むのではなくこのままの方が良いと思う。行政側の立場としては、具体的な施策を検討する際に、ある程度緩さがあった方が、様々なものを展開しやすい。

部会員

日田材のPRにおいて、日田材の良さは何かについては、今から検討することではあるが重要だ。答えがでると盛り上がると思う。

事務局

今後についてだが、12月8日に第3回策定委員会での意見を踏まえて修正を行い、12月中に各種手続きを踏まえ、外部向けの案としてパブリックコメントを通して市民からの意見を聴取することになっている。パブリックコメントに出す資料については、事前に皆様にお送りする。パブリックコメントの意見を踏まえた修正を行い、再度部会を開催して最終的な意見をお伺いしたい。それを踏まえ、2月予定の最終委員会に諮りたい。

部会長

以上を持って、部会を終了する。ありがとうございました。